

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	観光宣伝費				
担 当 課 係 名	観光課		観光係	作成者	水平裕見子
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち			総合計画のページ
	基本計画	観光誘客田体制の整備と観光資源の掘り起こし			
	主要施策	テンミリオン計画の推進			29
予 算 費 目	一般 会計	7 款 商工費	1 項 商工費	3 目 観光費	
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規 / 継続の区分		継続
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等	なし				
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☐ 直 営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	観光産業に携わる市民をはじめ、市民全体が観光で潤うまちづくりを目指すため観光宣伝活動を行う。
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	観光誘客により観光客を増加させ、観光産業の発展を図る。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	観光キャラバン、パンフレットの作成等。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	キャンペーン及び 広告掲載回数	目標	回	12	15	15	
			実績	回	9	14	15	
			達成度	%	75.0%	93.3%	100.0%	
	成果指標	観光客数	目標	人	10,000,000	10,000,000	10,000,000	
			実績	人	6,291,333	5,911,995	5,250,230	
			達成度	%	62.9%	59.1%	52.5%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				3,846	4,584	9,871	
	人 件 費 (B)		—		3,927	4,036	3,963	
	職 員 数		—		0.50	0.50	0.50	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				7,773	8,620	13,834	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				7,773	8,620	13,834
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		863,667	615,714	922,267	
	市民1人当たりのコスト(円)		—		244	274	446	

【事務事業の今までの成果】

田沢湖・角館・西木という3地区それぞれの長所や持ち味を生かした宣伝を同時にすることによって、仙北市の知名度が上がり、幅広く観光客を誘致できるようになってきた。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	国で観光庁の設置やビジットジャパン運動の展開等、強力に観光産業を推進している。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	一部の市民からは何故観光に力を入れる必要があるかなどの声も聞こえている。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	A 現状のまま継続（実施）	市が直接観光宣伝するよりも、観光協会がより主体となって宣伝活動を行った方が、緻密で効率の良い活動ができる可能性がある。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

観光協会と協議し、観光宣伝に係る財政面での支援を行うなどの検討。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	観光振興に携わる他の活動主体（観光協会）との役割分担の明確化や連携の強化を図りつつ、推進していくべきものと考えます。

一次評価診断図

